

山内賞報告

山内記念会

山内奨励賞の受賞者が次のように決まりました。この賞は、前年のプログラミング・シンポジウムにおける優秀な発表に対して授与されます。今回は、1999年1月の第40回の発表の中から選考しました。創意の部と表現の部からそれぞれ1件を選ぶのが通例ですが、創意の部は該当者なしでした。

山内奨励賞（表現の部）

坂東宏和，澤田伸一，中川正樹（東京農工大学工学部）

「楽しさ」を重視した教育支援ツールの設計と試作

〔推薦理由〕 筆者らは、子供達がコンピュータを使った学習をするとき、なぜテレビゲームのように夢中にならないかを分析した。その結果、学習に「楽しさ」が付加されていれば、子供が夢中になってやるのではないかと考えた。筆者らは、「楽しさ」を「ルールが簡単で遊んでいて飽きないこと」及び「何らかの方法で他者との競争ができること」と定義している。この考えをもとに、電子白板上で動作する複数のクイズ形式のツールを作成した。これらのツールは子供達が競って問題を解けるようにしたことで、学習しようという意識の低い子も学習に興味を持つように工夫されている。コンピュータを使用した学習は、コースウェアが使い物にならなかつたり、学習者がすぐに飽きてしまって苦心して作っても運用されないなど、実際に使用するのは難しい。この発表は、子供達が興味を持って学習を続けるための一つの方法を示したといえる。

本 PDF ファイルは 2000 年発行の「第 41 回プログラミング・シンポジウム報告集」をスキャンし、項目ごとに整理して、情報処理学会電子図書館「情報学広場」に掲載するものです。

この出版物は情報処理学会への著作権譲渡がなされていませんが、情報処理学会公式 Web サイトに、下記「過去のプログラミング・シンポジウム報告集の利用許諾について」を掲載し、権利者の検索をおこないました。そのうえで同意をいただいたもの、お申し出のなかったものを掲載しています。

https://www.ipsj.or.jp/topics/Past_reports.html

過去のプログラミング・シンポジウム報告集の利用許諾について

情報処理学会発行の出版物著作権は平成 12 年から情報処理学会著作権規程に従い、学会に帰属することになっています。

プログラミング・シンポジウムの報告集は、情報処理学会と設立の事情が異なるため、この改訂がシンポジウム内部で徹底しておらず、情報処理学会の他の出版物が情報学広場（＝情報処理学会電子図書館）で公開されているにも拘らず、古い報告集には公開されていないものが少からずありました。

プログラミング・シンポジウムは昭和 59 年に情報処理学会の一部門になりましたが、それ以前の報告集も含め、この度学会の他の出版物と同様の扱いにしたいと考えます。過去のすべての報告集の論文について、著作権者（論文を執筆された故人の相続人）を探し出して利用許諾に関する同意を頂くことは困難ですので、一定期間の権利者搜索の努力をしたうえで、著作権者が見つからない場合も論文を情報学広場に掲載させていただきたいと思います。その後、著作権者が発見され、情報学広場への掲載の継続に同意が得られなかった場合には、当該論文については、掲載を停止致します。

この措置にご意見のある方は、プログラミング・シンポジウムの辻尚史運営委員長 (tsuji@math.s.chiba-u.ac.jp) までお申し出ください。

加えて、著作権者について情報をお持ちの方は事務局まで情報をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

期間： 2020 年 12 月 18 日～2021 年 3 月 19 日

掲載日： 2020 年 12 月 18 日

プログラミング・シンポジウム委員会

情報処理学会著作権規程

<https://www.ipsj.or.jp/copyright/ronbun/copyright.html>